

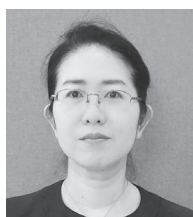
京都看護助産学校



副学校長
前中 由美



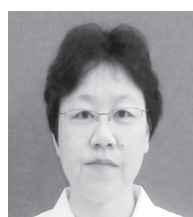
看護学科 教育主事
伊藤 睦美



看護学科教育主事
谷口 秀美
令和3年3月31日まで



看護学科 教育主事
藤尾 泰子
令和3年4月1日から



助産学科 教育主事
伊藤 美栄
令和3年3月31日まで



助産学科 教育主事
佐藤 美春
令和3年4月1日から

□ 教育理念

感じる心、考える力、主体的な行動

人間愛を基盤とし、生命の尊厳と人権の尊重ができる感性豊かな人間性を育てることに主眼をおき、看護専門職として必要な基礎的知識、技術、態度を習得し、保健医療福祉の変化に対応できる人材を育成する。

□ 教育目的

看護師若しくは助産師として必要な知識及び技術を教授し、独立行政法人国立病院機構及び社会に貢献し得る有能な人材を育成する。

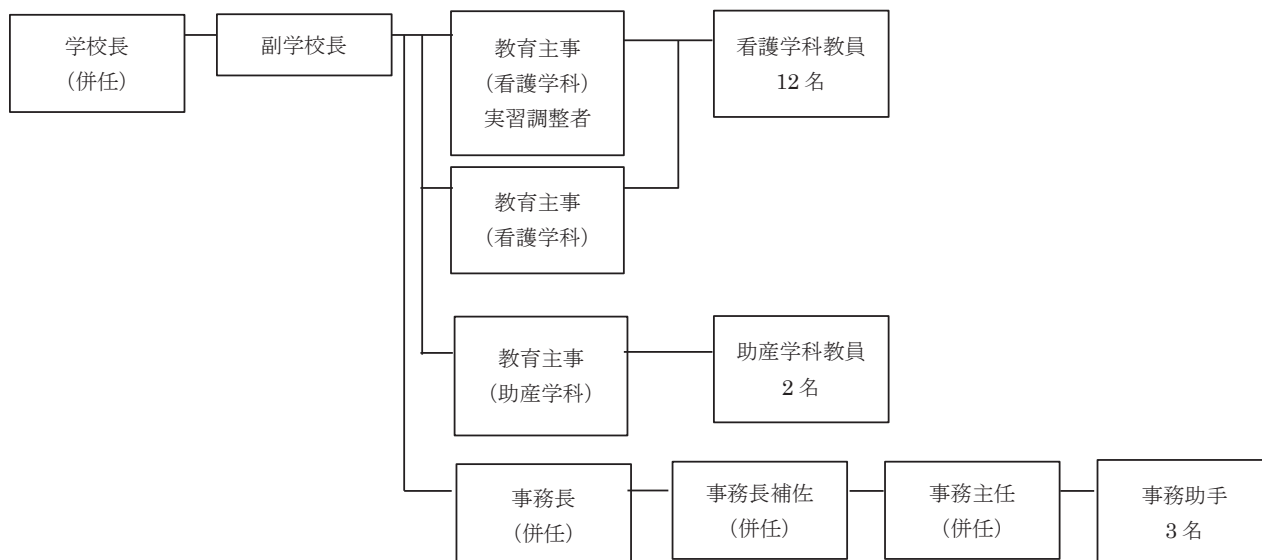
□ 教育目標

1. 生命の尊厳と個々の人権を尊重できる感性豊かな人間性を養う。
2. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解し、看護師としての人間関係を形成する能力を養う。
3. 看護師としての責務を自覚し、倫理に基づいた看護を実践する。
4. 科学的根拠に基づき、看護を計画的に実践する基礎的能力を養う。
5. 健康の保持・増進、疾病の予防および健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践する基礎的能力を養う。
6. 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割および他職種の役割を理解し、他職種と連携・協働する基礎的能力を養う。
7. 社会の動向に関心を持ち、常に主体的に看護を探究する姿勢と自己研鑽し続ける能力を養う。

□ 課程・定員

課 程	学 科	入学定員	総 定 員	在籍者数(令和3年5月1日)			
				1年生	2年生	3年生	合計
看護専門課程	看護学科 (3年課程)	80人	240人	87人	73人	83人	261人
看護専門課程	助産学科 (1年課程)	18人	18人	18人	—	—	18人
計		98人	258人	105人	73人	83人	279人

□本校の組織(令和3年度)



□令和2年度 部門目標

部門目標		重点目標	主な取り組み
1	地域社会のニーズ・学生のニーズに応じた質の高看護教育の実践	- 魅力あるカリキュラムの構築 - 多職種連携教育への取組 - 学生の臨床判断能力・看護実践能力の向上を目指した教育の充実 - 看護教員能力開発プログラム活用における教員の教育実践能力の向上	2022年度カリキュラム改正に向け、検討会議を計画的に実施。 - 看護技術取得に、学生同士によるピアチェックを導入。 - 高機能シミュレーターを用いた演習による臨床判断能力向上。
2	将来看護師・助産師として国立病院機構及び地域に貢献できる優秀な人材の確保	- 応募者の確保 - 高い国家試験合格率の維持 - 国立病院機構及び京都府への就職者の確保	- 高校訪問88校(前年度44校) - ホームページに学校紹介動画 - オープンキャンパスを来校型とオンライン型を同時開催。
3	学生が安心して学べる教育環境の整備	- COVID-19感染拡大防止対策の徹底、状況に応じた教育計画の変更、学生の学習保障 - 適切な危機管理体制の構築・整備 - 大学等における修学支援制度の開始にあたり運用マニュアルの整備	5月より遠隔授業開始。学生との連絡体制整備。(ZOOM、Google class roomを活用) - 臨地実習の一部を学内実習へ変更。実習方法・評価の調整。 - 学校における「感染予防・対応マニュアル」作成・周知徹底 - 修学支援新制度の活用による学生の支援体制の整備
4	職員が働きやすい職場環境の充実	- 働き方改革に向けた取り組みの推進 - 職場のハラスメント予防、相談の適切な対応	- 在宅勤務の導入 - 変則勤務の活用による超過勤務時間の削減 - 相談窓口を周知

□入学状況

看護学科

年度 (回生)	試験	応募者数	受験者数	合格者数	補欠 合格者数	合格者からの 入学者数	補欠者からの 入学者数	入学者数	退学者数	原級 留置者 (在籍者)	3年以上 在籍した 卒業生数	卒業生数 (3年)
平成30年度 (第17回生)	推薦(学校)	19	19	19	0	19	0	19	1			18
	推薦(公募)	24	24	20	0	20	0	20				20
	社会人	13 (2)	13 (2)	6	0	6	0	6		1		5
	一般	102 (10)	100 (10)	55 (3)	10	32 (2)	0	32 (2)	2			30
	合計	158 (12)	156 (12)	100 (3)	10	77 (2)	0	77 (2)	3	1	0	73 (2)
2019年度 (第18回生)	推薦(学校)	19	19	19	0	19	0	19				
	推薦(公募)	17	17	15	0	15	0	15				
	社会人	18 (2)	18 (2)	12 (1)	0	12 (1)	0	12 (1)	1			
	一般	80 (7)	76 (7)	58 (2)	3 (2)	39 (2)	0	39 (1)	2 (1)			
	合計	134	130	104	3	85	0	85 (2)	3 (1)			
令和2年度 (第19回生)	推薦(学校)	11	11	11	0	11	0	11				
	推薦(公募)	15 (1)	15 (1)	13 (1)	0	13 (1)	0	13 (1)				
	社会人	16 (2)	16 (2)	12 (1)	0	10 (1)	0	10 (1)				
	一般	66 (3)	61 (3)	53 (2)	0	26 (1)	2 (1)	28 (2)	1			
	一般 (2回目)	14 (2)	13 (2)	13 (2)	0	13 (2)	0	13 (2)	1			
	合計	122 (8)	116 (8)	102 (6)	0	73 (5)	2 (1)	75 (6)	2			
令和3年度 (第20回生)	推薦(学校)	41 (2)	41 (2)	41 (2)	0	41 (2)	0	41 (2)				
	推薦(公募)	27 (3)	27 (3)	21 (1)	0	21 (1)	0	21 (1)				
	社会人	11	10	6	0	6	0	6				
	一般	55 (3)	51 (3)	32 (1)	5	19 (1)	0	19 (1)				
	一般 (追試験)		2	1	0	0	0	0				
	合計	134 (8)	131 (8)	101 (4)	5	87 (4)	0	87 (4)				

() 男性再掲

助産学科

年度 (回生)	試験	応募者数	受験者数	合格者数	補欠 合格者数	合格者からの 入学者数	補欠者からの 入学者数	入学者数	退学者数	卒業生数
2020年 (第52回生)	特別選抜 (学校)	16	16	12	0	12	0	12	0	12
	特別選抜 (施設)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般	40	35	6	2	4	2	6	0	6
	合計	56	51	18	2	16	2	18	0	18
令和3年度 (第53回生)	特別選抜 (学校)	12	12	10	0	10	0	10		
	特別選抜 (施設)	0	0	0	0	0	0	0		
	一般	46	38	8	3	7	1	8		
	合計	58	50	18	3	17	1	18	0	0

□卒業生の進路

<看護学科>

令和3年5月1日現在

年度	回生	卒業 者数	就職							進学				未就 職
			国立病院機構		NC	官公 立	法人	その他	看護職 以外	保健 師	助産 師	養護 教諭	大学	
			自施設	他施設										
平成28年度	第13回生	82	43	29	1	0	1	1	0	0	6	0	0	1
平成29年度	第14回生	87	42	29	3	1	5	1	0	0	6	0	0	0
平成30年度	第15回生	73	22	29	7	4	3	0	0	0	4	0	1	3
令和元年度	第16回生	88	30	25	3	9	8	0	0	1	8	0	0	4
令和2年度	第17回生	74	36	26	2	3	0	0	0	0	4	0	2	1

年度	府内／府外	卒業生数	府内 就職者数	(再掲)		府外 就職者数	進学者	その他
				北部就職者	実習就職者			
平成30年度	府内出身者	51	35	1	31	12	3	1
	府外出身者	22	7	0	7	11	2	2
令和元年度	府内出身者	53	34	0	32	12	4	3
	府外出身者	35	12	0	12	17	5	1
令和2年度	府内出身者	47	35	0	34	10	2	0
	府外出身者	27	15	1	14	7	4	1

<助産学科>

年度	回生	卒業 者数	就 職						未就職
			国立病院機構		官公立	法人	その他	看護職	
			自施設	他施設				以外	
平成28年度	第48回生	24	4	9	6	5	0	0	0
平成29年度	第49回生	23	2	10	5	6	0	0	0
平成30年度	第50回生	22	2	7	8	5	0	0	0
令和元年度	第51回生	18	4	5	6	3	0	0	0
令和2年度	第52回生	18	3	11	4	0	0	0	0

年度	府内／府外	卒業生数	府内 就職者数		(再掲)				府外 就職者数		その他
					北部就職者		実習就職者				
			助産師	看護師	助産師	看護師	助産師	看護師	助産師	看護師	
平成30年度	府内出身者	7	6	0	2	0	3	0	1	0	
	府外出身者	15	1	0	0	0	0	0	14	0	
令和元年度	府内出身者	6	5	0	1	0	3	0	1	0	
	府外出身者	12	3	0	0	0	2	0	9	0	
令和2年度	府内出身者	4	2	1	0	0	2	1	1	0	
	府外出身者	14	2	0	0	0	2	0	11	1	

□国家試験合格状況

<看護学科>

		全体 (%)	機構附属 (%)		
			全国	近畿	本校
107回 (H30.3)	全体 (新卒)	91.0 (96.3)	98.4 (98.8)	99.7	100
108回 (H31.3)	全体 (新卒)	89.3 (94.7)	97.3 (98.1)	99.0	95.9
109回 (R2.3)	全体 (新卒)	89.2 (94.7)	97.3 (98.2)	98.5	96.6
110回 (R3.3)	全体 (新卒)	89.2 (94.7)	90.4 (95.4)	98.3	100

<助産学科>

		全体 (%)	機構附属 (%)	
			全国	本校
101回 (H30.3)	全体 (新卒)	98.7 (99.4)	100	100
102回 (H31.3)	全体 (新卒)	99.6 (99.9)	100	100
103回 (R2.3)	全体 (新卒)	99.4 (99.5)	100	100
104回 (R3.3)	全体 (新卒)	99.6 (99.7)	100	100

□入学試験実施状況

看護学科	一次試験	二次試験	合格発表
一般入試	令和3年1月21日 (木)	令和3年1月23日 (土)	令和3年1月28日 (木)
社会人入試	令和2年11月12日 (木)	令和2年11月14日 (土)	令和2年11月19日 (木)
公募推薦入試	令和2年11月12日 (木)		令和2年11月19日 (木)
推薦入試			

助産学科	一次試験	二次試験	合格発表
一般入試	令和3年1月21日 (木)	令和3年1月23日 (土)	令和3年1月28日 (木)
特別選抜入試	令和2年11月12日 (木)		令和2年11月19日 (木)

□学生募集活動

<ガイダンス>

月	日	曜	内容	場所	出席者	実績数
7	5	日	TAP主催 オンラインガイダンス 滋賀県立甲西・水口・大津高等学校	オンライン (ZOOM)	谷口	7人
	10	金	昭栄広報主催 京都すばる高等学校	京都すばる高等学校	谷口	2人
	16	木	TAP主催 滋賀県立伊吹高等学校	伊吹高等学校	谷口	1人
8	3	月	TAP主催 滋賀県立甲西高等学校	甲西高等学校	谷口	3人
	8	土	さんぽう主催進学説明会 (大阪)	梅田スカイビル	谷口	5人
	30	日	さんぽう主催進学説明会 (京都)	メルパルク	谷口	19人
10	22	木	ケーホウ主催 京都府立北嵯峨高等学校	北嵯峨高校	谷口	10人
11	2	月	エフォール主催 京都府立福知山高等学校	福知山高等学校	谷口	2人
	5	木	華頂女子高等学校	華頂女子高等学校	谷口	17人
	11	水	TAP主催 京都府立田辺高等学校	文化パルク城陽	谷口	2人
2	4	木	さんぽう主催 大阪府立三島高等学校	三島高等学校	谷口	2人
	9	火	TAP主催 比叡山高等学校	比叡山高等学校	谷口	12人
	12	金	TAP主催 京都府立東宇治高等学校	東宇治高等学校	谷口	9人
	17	水	ケーホウ主催 京都府立向陽高等学校	向陽高等学校	谷口	12人
3	10	水	TAP主催 京都府立西城陽高等学校	西城陽高等学校	太田	35人

<高校訪問>

	都道府県別訪問校 (新規再掲)	訪問校数 (指定校再掲)	内容
7月	京都府 39校(6校) 大阪府 8校(0校) 滋賀県 15校(0校) 福井県 1校(0校)	63校(44校)	学校説明会 入学試験の説明 看護系進学予定者・主な進路の確認 情報交換
8月	京都府 7校(0校) 奈良県 9校(0校) 兵庫県 2校(2校)	18校(2校)	学校説明会 入学試験の説明 看護系進学予定者・主な進路の確認 情報交換
9月	京都府 7校(0校) 大阪府 4校(0校)	11校(0校)	学校説明会 入学試験の説明 看護系進学予定者・主な進路の確認 情報交換
延べ訪問高校数 92校 (新規 8校)			

<オープンキャンパス>

(1) 高校教員対象

感染拡大防止のため中止

(2) 応募者対象

学 科	日 程	参加者数	WEB参加者数	内 容
看護学科	令和2年 7月19日(日)	40名	—	学校説明 学校生活の紹介 入学試験の説明 模擬授業体験 沐浴、採血 看護学生との交流
	令和2年 8月23日(日)	31名	—	
	令和2年 9月 5日(土)	27名	—	
	令和2年10月10日(土)	29名	10名	
	令和3年 3月13日(土)	21名	3名	
	計	147名	13名	
助産学科	令和2年 7月19日(日)	27名	19名	学校説明 学校生活の紹介 入学試験の説明 助産学生体験 モデル人形による分娩介助
	令和2年 8月23日(日)	35名	16名	
	令和2年 9月 5日(土)	22名	18名	
	計	84名	53名	

□研究活動

1) 研究活動

<学会発表>

日程	学会名	テーマ	研究者(○発表)
令和3年3月20-21 (Web)	第35回日本助産学会学術集会(神戸)	卒業前の分娩助産OSCEの実施と学生の学び	○北井 英子 柚木 麻央, 伊藤美 栄

<執筆・論文投稿>

収蔵誌	出版社	タイトル	教員 (○筆頭)
看護教育	医学書院	特集:看護実践につながる専門基礎科目の教授法 「助産師養成課程における臨床推論能力の育成～専門基礎科目の知識として～」	○伊藤 美栄
アドバンス助産師のための教育プログラム	医学書院	「助産師に必要な臨床推論力」 「OJTとOff-JT」 「参考となる研修プログラム例」	○伊藤 美栄

<令和2年度 京都医療センター成果発表会>

日程	テーマ	研究者 (○発表)
令和3年 3月13日	COVID-19禍におけるオンライン授業による学習効果と課題～助産診断・技術学Ⅱ分娩期の学習内容の分析～(ポスター)	○並崎 直美 柚木麻央 北井英子
令和3年 3月13日	臨地実習での看護援助の実施における学生の困難感とその対処方法	○大上 寿子 住田 尚子 寺田 博子
令和3年 3月13日	基礎看護技術教育における看護学生のピア評価導入	○榮 圭子 晝間 梓 伊藤 智美

<副学校長・教育主事協議会 研修グループ>

名称	テーマ	副学校長・教育主事
1.2年目看護教員育成	1・2年目教員の「教育実践力」の向上を図る。 授業実施校における集合研修 計2回	前中 由美, 伊藤 睦美 他
中堅看護教員の育成	学校運営に携わる自分の役割を認識し、目標達成に向けた実践を通しリーダーとして成長する。 オンラインによる研修 計3回	伊藤 美栄 他
教員能力開発プログラム	活用の検討	谷口 秀美 他
倫理審査委員会設立	倫理審査委員会の設立、規程作成	

<教員研修会 研究グループ>

	テーマ	教員
京都1G	訪問看護実習終了後のアンケート結果からオンライン授業における指導案作成	太田 恵子, 中村 なぎさ 山本 緑
京都 2G	臨地実習での看護援助の実施における学生の困難と対処方法	大上 寿子, 住田 尚子 寺田 博子
京都3G	基礎看護教育における看護学生のピア評価導入	榮 圭子, 晝間 梓 伊藤 智美
京都4G	新人看護師の採血技術指導を看護教員が行うことによる教育効果の考察	近藤 尚子, 寺田 美鳥 太田 恵子
京都5G	遠隔授業の取り組みの実践報告	北井 英子, 柚木 麻央 並崎 直美

<授業研究>

日程	科目	授業内容	教員
令和2年 6月9日	助産学科 助産診断・技術学Ⅱ	「分娩介助技術演習」	並崎 直美
令和2年 6月18日	助産学科 助産診断・技術学Ⅱ	「分娩期臨床推論①情報整理」	伊藤 美栄
令和2年 7月3日	助産学科 助産診断・技術学Ⅰ	「妊婦健診シミュレーション」	柚木 麻央
令和2年 7月3日	助産学科 助産診断・技術学Ⅲ	「沐浴・新生児計測技術演習」	北井 英子
令和2年 7月6日	助産学科 助産診断・技術学Ⅱ	「妊婦健診OSCE」	柚木 麻央
令和2年 7月10日	基礎看護技術Ⅳ	酸素療法	晝間 梓
令和2年 10月22日	老年看護学演習Ⅱ	認知症高齢者と家族のサポート・高齢者の権利擁護	山本 緑
令和2年 10月26日	基礎看護技術Ⅲ	清拭・寝衣交換	寺田 博子
令和2年 11月16日	基礎看護技術Ⅴ	採血	大上 寿子
令和2年 11月30日	基礎看護技術Ⅵ	注射の準備の実際 薬液の吸い上げ	寺田 美鳥
令和2年 11月30日	看護の統合と実践Ⅳ	腹腔鏡術後患者の看護ロールプレイ	中村 なぎさ
令和2年 12月8日	看護過程展開技術	看護計画の実施(ロールプレイ)に向けた授業案の検討	太田 恵子
令和2年 12月17日	看護過程展開技術	看護計画の実施 (ロールプレイ)	太田 恵子
令和3年 1月7日	小児看護学概論	小児の成長発達	榮 圭子
令和3年 1月7日	老年看護援助技術	おむつ交換	伊藤 智美
令和3年 1月13日	成人看護援助技術Ⅰ	症状看護	住田 尚子
令和3年 2月16日	特別教育活動	卒業前分娩介助OSCE	並崎 直美
令和3年 2月17日	特別教育活動	卒業前分娩介助OSCE	並崎 直美
令和3年 2月18日	特別教育活動	卒業前分娩介助OSCE	並崎 直美

2) 研修

<近畿グループ>

感染拡大防止のため中止

<副学校長・教育主事協議会>

(1) 中堅看護教員研修

日程	研修内容	担 当	参加者
令和2年 10月19日	1. 「IV教育課程評価」の自己点検・自己評価から考える自校の 学校運営における組織の課題の明確化 2. 自己評価および組織の課題共有 (WEB開催)	伊藤 美栄	北井 英子 寺田 博子
令和2年 12月11日	1. 組織の課題に対する目標設定・取り組み状況・目標達成状 況報告(中間発表) 2. 今後の課題解決に向けての情報交換・検討 (WEB開催)	伊藤 美栄	北井 英子 寺田 博子
令和3年 2月19日	1. 実践の継続・最終評価 2. 組織課題解決の成果 (WEB開催)	伊藤 美栄	北井 英子 寺田 博子

(2) 1,2年目教員研修

日程	研修内容	担 当	参加者
令和2年 7月10日	1. 遠隔授業参観「基礎看護技術Ⅳ(呼吸を整える援助 酸素療 法)」 2. 授業参観リフレクション 3. 現在の授業実施状況について 4. 看護教員能力開発プログラムの教育実践力「授業実践」の レベルⅠとⅡの自己評価	前中 由美 伊藤 睦美	晝間 梓 並崎 直美
令和2年 11月26日	1. 先輩教員の授業「洗髪援助の実践」にサポート教員として 参加 2. 演習授業のリフレクション 3. 「教授活動自己評価尺度-看護技術演習用-」を用いて自己 の授業のリフレクション	前中 由美 伊藤 睦美	晝間 梓 並崎 直美

<学校>

(1) 実務研修

日程	研修内容		教員
令和2年 4/13,15	京都医療センター	新人看護師の採血技術の指導・新人看護師の入職時の 看護技術の到達度を知る	晝間 梓
令和2年 4/20,22	京都医療センター	新人看護師の継続教育に参加することで、技術習得状況 を把握し、今後の基礎教育に活かす。	伊藤 智美
令和2年 4/21,23	京都医療センター	新人看護師の採血技術の状況を知るとともに指導を行う	太田 恵子
令和2年 4/24,28	京都医療センター	新人看護師の出身校によるレディネスの違いを把握し、 技術指導に必要な項目を考える。	山本 緑
令和2年 4/17,21	京都医療センター	採血における事故防止対策を学び、学生指導に活かす。 病棟におけるOJTについて学び、学生指導に活かす。	寺田 美鳥
令和2年 4/23,27	京都医療センター	卒業生の技術状況を知り、強化すべき教育内容・方法を 考える。	中村 なぎさ
令和2年 4/27,30	京都医療センター	新人教育としての採血の指導について考える。病棟業務 の実際を知り、基礎教育に活かす。	寺田 博子
令和2年 4/28,5/1	京都医療センター	病棟管理の実際を知り、今後の学生指導に活かす	大上 寿子
令和2年 4/14,16 10/6"	京都医療センター 南京都病院	・新人看護師の採血技術の確認 ・実習施設における在宅支援の実際と看護管理を知る	住田 尚子

令和2年 4/15,17 10/6	京都医療センター 南京都病院	・新人看護師への技術習得への支援と病棟看護の実際を知り実習指導に活かす。 ・実習施設における在宅支援の実際と看護管理を知る	榮 圭子
令和2年 4/16,20	京都医療センター	病棟で実際に行われている看護を体験することで、講義・実習指導に活かす	近藤 尚子
令和2年 4/30.5/1	京都医療センター	実習病院のシステム理解とコロナ対策が行われている中で新人教育に携わる	並崎 直美
令和2年 4/22.24	京都医療センター	新卒看護師の現任教育の実際を知る機会とする。看護基礎技術の経験機会とする。	柚木 麻央
令和2年 4/13.14	京都医療センター	看護・助産業務から離れているため現場を知ること、卒業生の現任教育の実際を知る	北井 英子

3) 社会への貢献

<公開講座>

日 程	テーマ	参加者数
令和2年7月19日	1. 感染予防と免疫力アップ 2. ビニール袋でガウンを作ろう 3. コロナ予防体操、スマホッ首予防体操	18名
令和2年8月23日	1. 感染予防と免疫力アップ 2. ビニール袋でガウンを作ろう 3. コロナ予防体操、スマホッ首予防体操	8名

<教員の講習会、研修等の講師>

日程	研修内容	教員
令和2年 8月22日	滋賀県看護協会 令和2年度 生涯教育研修会 「臨床推論を用いた助産師教育を学び、実践力向上をめざそう!」 助産実践能力習熟段階レベルⅢ 認証制度 研修	伊藤 美栄
令和2年 10月3日	茨城県助産師会 令和2年度茨城県助産師会研修会 「助産師の臨床推論力を鍛えよう」	伊藤 美栄
令和3年 3月7日、14日	公益社団法人 全国助産師教育協議会 ファーストステージ研修 「助産師教育方法論 6.授業評価の考え方(臨床推論とOSCE含む)」	伊藤 美栄

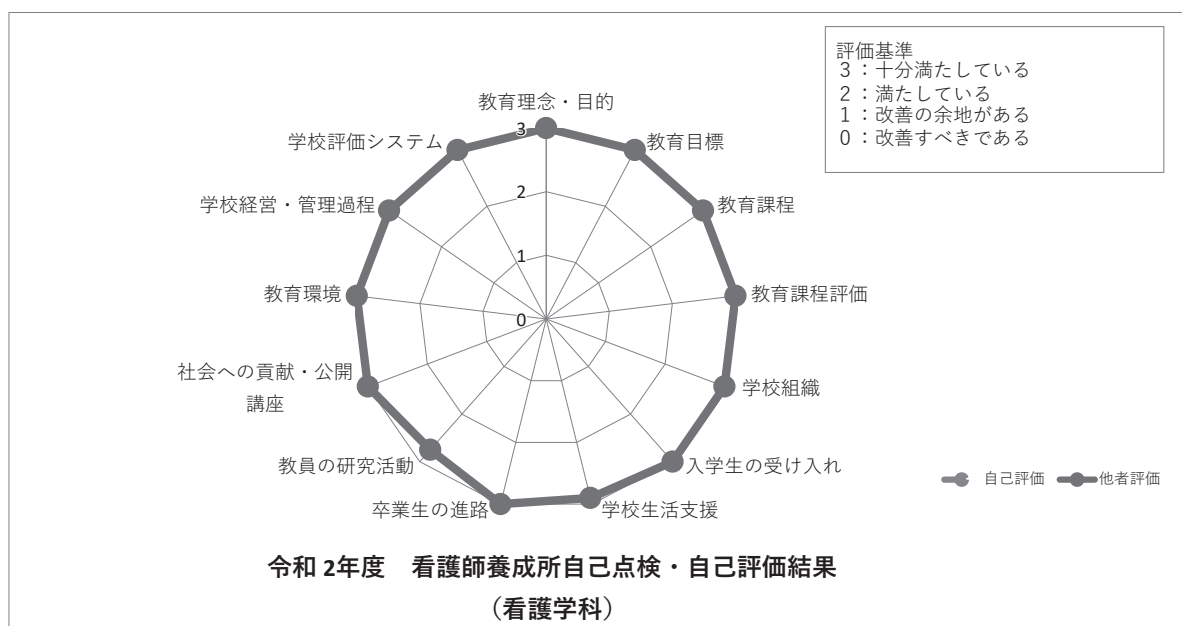
<研修生受け入れ>

日程	研修内容		受け入れ数
令和2年 10月26日～ 10月29日	教員インターンシップ	講義見学 技術演習参加 実習指導見学 学内での学生指導	1名
令和2年 10月26日～ 10月30日	教員インターンシップ	講義見学 技術演習参加 実習指導見学 学内での学生指導	1名
令和2年 11月24日～ 11月27日	教員インターンシップ	講義見学 技術演習参加 実習指導見学 学内での学生指導	1名
令和2年 11月24日～ 11月27日	教員インターンシップ	講義見学 技術演習参加 学内での学生指導	1名

学校評価の実施

当校では、教育活動の質の向上をはかり、地域社会及び学生から寄せられる期待に応えるために、平成19年から自己点検・自己評価を実施しています。評価表は27年度に見直しを行い、13領域、110項目について、より客観性のあるフィードバックが得られるように改訂しました。

令和元年度は国立病院機構近畿グループ5校の副学校長・教育主事・教員による学校相互評価を実施し、更なる教育の充実を目指しています。

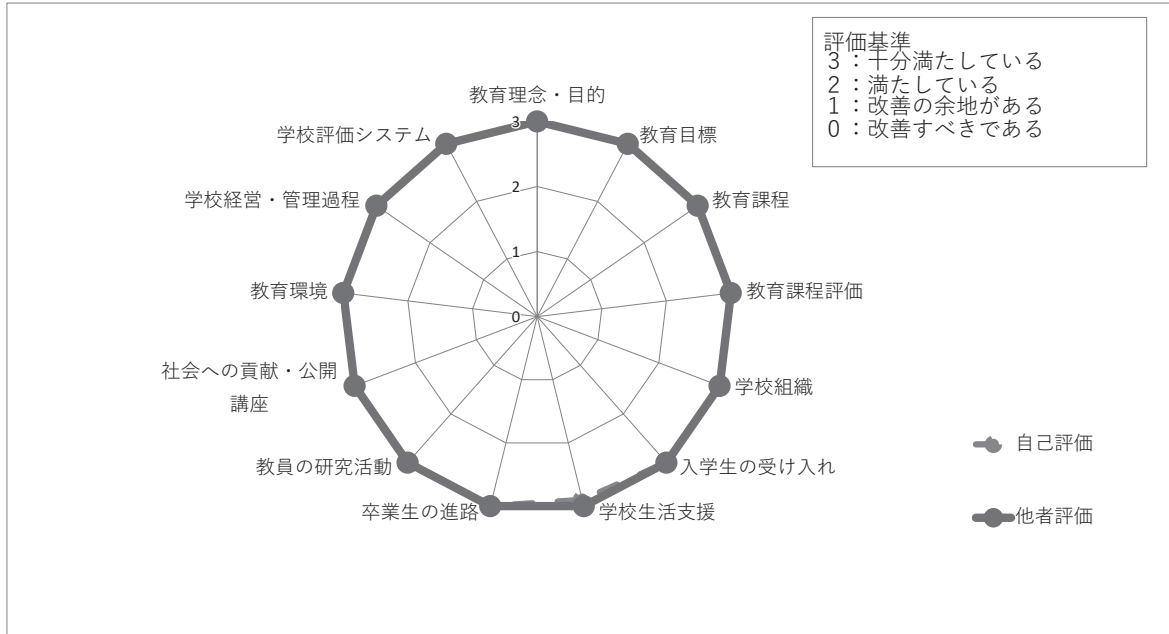


	評価項目	評価の視点	R2年度	R1年度
I	教育理念・目的	学校の教育理念・教育目的は明文化され、教職員および学生に浸透し、卒業時点での学生像に反映されているかについて評価します。	3.0	2.7
II	教育目標	教育理念・目的・教育目標の一貫性および卒業後教育との継続性を考慮した目標設定であり、教員・学生が共有できているかについて評価します。	3.0	3.0
III	教育課程	教育課程の編成について独自性、整合性、ニーズへの対応などの観点から科目が挙げられているか、講義・実習の内容に妥当性があり、教育の質向上のために工夫し、計画的に進められているかについて評価します。	3.0	3.0
IV	教育課程評価	自己および学生による授業評価の実施と改善の取り組み状況について評価します。	3.0	3.0
V	学校組織	学校の組織体制について人員配置および意思決定システムが適正であるかと防災対策や個人情報保護について評価します。	3.0	2.9
VI	入学生の受入れ	自校の教育理念に基づいた入学選抜試験の適正な運用と実施状況の分析、検証状況について評価します。	3.0	3.0
VII	学校生活支援	学生の生活支援体制について、健康管理、プライバシー保持、自治会活動、関係者との調整の観点から整備されているかについて評価します。	2.9	3.0
VIII	卒業生の進路	卒業時の到達状況、進路、国家試験の合格状況を分析し、教育活動に生かしているかについて評価します。	3.0	3.0
IX	教員の研究活動	教員の研究活動の実施状況および支援体制について評価します。	2.8	3.0
X	社会への貢献・公開講座	公開講座やボランティア等、地域社会のニーズをふまえた社会貢献、近隣関連施設との情報交換等、地域との交流状況、また、国際的視野をふまえた教育体制等について評価します。	3.0	2.9
X I	教育環境	施設設備などの学習環境の整備状況について評価します。	3.0	3.0
X II	学校経営・管理過程	教育活動について将来構想をもとに計画的に管理・運営しているかについて評価します。	3.0	2.9
X III	学校評価システム	自己点検・自己評価システムの整備状況や運用について評価します。	3.0	3.0
全 体 平 均			3.0	2.9

学校評価の実施

当校では、教育活動の質の向上をはかり、地域社会及び学生から寄せられる期待に応えるために、平成19年から自己点検・自己評価を実施しています。評価表は27年度に見直しを行い、13領域、110項目について、より客観性のあるフィードバックが得られるように改訂しました。

令和元年度は国立病院機構近畿グループ5校の副学校長・教育主事・教員による学校相互評価を実施し、更なる教育の充実を目指しています。



	評価項目	評価の視点	R2年度	R1年度
I	教育理念・目的	学校の教育理念・教育目的は明文化され、教職員および学生に浸透し、卒業時点での学生像に反映されているかについて評価します。	3.0	3.0
II	教育目標	教育理念・目的・教育目標の一貫性および卒業教育との継続性を考慮した目標設定であり、教員・学生が共有できているかについて評価します。	3.0	3.0
III	教育課程	教育課程の編成について独自性、整合性、ニーズへの対応などの観点から科目が挙げられているか、講義・実習の内容に妥当性があり、教育の質向上のために工夫し、計画的に進められているかについて評価します。	3.0	3.0
IV	教育課程評価	自己および学生による授業評価の実施と改善の取り組み状況について評価します。	3.0	3.0
V	学校組織	学校の組織体制について人員配置および意思決定システムが適正であるかと防災対策や個人情報保護について評価します。	3.0	2.9
VI	入学生の受入れ	自校の教育理念に基づいた入学選抜試験の適正な運用と実施状況の分析、検証状況について評価します。	3.0	3.0
VII	学校生活支援	学生の生活支援体制について、健康管理、プライバシー保持、自治会活動、関係者との調整の観点から整備されているかについて評価します。	3.0	3.0
VIII	卒業生の進路	卒業時の到達状況、進路、国家試験の合格状況を分析し、教育活動に生かしているかについて評価します。	3.0	2.8
IX	教員の研究活動	教員の研究活動の実施状況および支援体制について評価します。	3.0	3.0
X	社会への貢献・公開講座	公開講座やボランティア等、地域社会のニーズをふまえた社会貢献、近隣関連施設との情報交換等、地域との交流状況、また、国際的視野をふまえた教育体制等について評価します。	3.0	2.9
X I	教育環境	施設設備などの学習環境の整備状況について評価します。	3.0	3.0
X II	学校経営・管理過程	教育活動について将来構想をもとに計画的に管理・運営しているかについて評価します。	3.0	2.7
X III	学校評価システム	自己点検・自己評価システムの整備状況や運用について評価します。	3.0	3.0
全 体 平 均			3.0	2.9

令和2年度 学校関係者評価

1. 学校関係者評価の目的

- 1) 教育に関する知見を有する者、臨地実習施設の関係者、看護管理者経験者、卒業生などの学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。
- 2) 学校関係者との連携協力により、特色のある学校づくりを推進する。

2. 学校関係者評価委員名簿

規 程	所 属 氏 名
教育に関する知見を有する者	京都教育大学 教育学科 教授 相澤 伸幸
臨地実習施設の関係者	京都医療センター 看護部長 池田 仁美
看護管理者経験者	洛和会ヘルスケアシステム 洛和会TQM支援センター 部長 伊藤 文代
卒業生(一定のキャリアを持つ者)	京都医療センター 看護師長 橋本 恵

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時: 令和3年2月22日(月) 13:00 ~ 14:30

実施場所: 京都医療センター附属京都看護助産学校 会議室

4. 学校関係者評価委員会の実施方法

- 令和2年度の学校の重点目標についての取り組みと課題を報告(看護学科・助産学科)
- 令和2年度の自己点検・自己評価結果の報告
- 学校関係者の皆様からの学校運営への評価と、課題解決に向けて学校関係者の皆様と検討

5. 総評

1. コロナ禍の学校運営の工夫について

- ・今年度、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で教育環境に大きな変化を強いられた。その中で、教育水準の維持に向けて様々な工夫がされている。科学的分析を行い、良い取り組みは今後も継続されると良い。

2. 遠隔授業について

- ・対面・オンラインそれぞれの良さがある。教育内容によってどちらが適しているのか見極めていく。
- ・ICTを活用することで、課題の提出や授業評価などタイムリーに対応できるようになったのは良い。
- ・遠隔授業の準備は対面授業よりも非常に時間を要する。また、操作に不慣れな学生や講師のサポートが必要であり、教員の業務量が増えている。事務職員が配置された学校もあり、検討されるとよい。

3. 臨地実習について

- ・実習の多くは国立病院機構の病院で実施しており、実習方法に制約はあったものの感染対策を行った上で患者を受け持った実習が行えた。
- ・実習における制約(1回の訪問は15分以内など)は、就職してからの効率的な情報収集・看護にもつながるため、この取り組みは今後も継続されるとよい。

4. 卒業生の評価について

- ・看護学科ではホームカミングデーをWebで開催。助産学科は実習施設に就職した学生から話を聞いた。
- ・助産学科卒業後、助産業務につく時期が遅くなっている。早く助産業務を開始した方が良いのではないかな。

まとめ

コロナ禍で多くの問題に対応する中で、ICT化に取り組み、感染予防対策を図りながら教育の質の維持・向上に取り組まれている。今年度の様々な取り組みについて、経過や成果を科学的に分析し、今後の教育に活用されることを望む。